

# 個性かがやく高校づくり推進事業

本校は、平成19年度4月より宮城県教育委員会から「個性かがやく高校づくり推進事業」の指定校に指定されています。

## 1 平成19年度個性かがやく高校づくり推進事業報告書

(別紙様式3)

平成19年度個性かがやく高校づくり推進事業【実施状況報告書】

学校名 宮城県仙台第一高等学校(全)

1 事業概要

(1)事業名 難関大・難関学部進学推進事業

(2)課題 難関大学・難関学部合格者増

(3)取組概要 先進校進路担当者の講演会

現役進学率の向上

難関大入試説明会

OBによる進路講演会

学部学科説明会

2 個別事業内容

実施項目 (実施時期)	ねらい・達成目標	実施状況	成果	今後の課題	自己評価
先進校進路担当者の講演会 (11月30日)	すぐれた進学実績をあげている他県進学校の進路指導部長を講師として、教員の進路指導に係る意識啓発を図り、効果的な実践例を研修する。	岡山県立岡山朝日高、現教務課長(前進路課長)鷹家秀史氏の進路講演会を実施。本校職員約50名の参加があった。	結果を出している学校の取り組みに刺激を受け、進路指導の形というものを考える上で意識啓発にもつながり参考になった。	本校における進路指導および学校としての方向性をどう具現化するか。	A
難関大入試説明会 (8~9, 2月)	東大等の難関大学受験者の指導に対応できる校内の指導体制を作るとともに、入試問題を分析することにより、高い作問能力を身につける。	各業者主催(3社)の東大および難関大・難関学部入試研究会へ5名参加。	学年主任等の先生方に実績を残している先進校の東大および難関大への取り組み等から組織・指導体制のヒントが得られた。	全体、教科等で共通認識の上に立って、組織・個人をどう融合して、学校としての指導体制を作れるか。	B
OBによる進路講演会 (11月13日)	2年生全員を対象とし、大学での学問研究内容や学部学科の特色を知るとともに、高校在学時の生活のあり方や受験勉強の方法などを具体的に考える一指針とする。	OBである東北大生を中心に9学部10分野に分かれての分科会形式で2年生全員対象に実施した。	先輩の講話ということで親密な雰囲気があり、生徒にとって大学をより身近なものとして捉える機会となった。	東北大生中心ということで、学科のバランスや講師陣の固定化を招かないように工夫が必要か。	A
学部学科説明会 (11月14日~12月7日)	主として、1・2年生を対象とし、直接東北大学の先生方から、それぞれの学部学科の研究・説明を受けることで、早期の進学意識啓発に役立て、学問の面白さを知る一助とする。	放課後を利用し、東北大学の文・理系学部の先生方(工:3, 理:2, 農:1, 医:1, 経:1, 法:1, 文:1)7学部10名による学部学科説明と最先端の研究内容の講義で実施した。	2年次の進路目標の学部学科研究の一環にもなり、学問の研究に対する知的好奇心を高め、生徒への早期の意識啓発に大いに役立った。	できるだけ多くの学部・学科に参加出来るようにすることで、生徒の志望に対する理解度を深化させられるか。	A

3 事業全体について学校としての評価

将来的に解決しなければならない課題(男女共学, 学区制撤廃による社会情勢の変化と本校の存在意義)の具体的な観点として(1)教員の授業力・教科指導力の向上, (2)生徒の進路意識高揚, (3)生徒指導を含む組織的で活力のある学校運営と捉え、この事業で解決しようとする課題として「難関大学・難関学部合格者増」と「現役進学率の向上」を挙げて、2- は教職員対象, 2- は生徒対象の個別事業の実施は、本校の今後のあり方や方向性、組織運営と指導体制の再確認(見直し)を図る機会を与えるものとして、バランスのとれた事業としての評価であり、継続していく中でより具体的かつ効果的な方法や取り組みが展開されていくのではないかと考える。

